



四天王剽盜異錄

後編

13
974
6



是を新獲く。徒おひを鳥。その年もふれ。春の生ゆめめど
 あまうりく。後兵衛尉齋明とよりのあり。保昌が兄齋光が子あり。
 父齋光ハ十七歳あり。妻公娶り。その年冬この齋明を生む。妻公ハ
 産後ふまきり。齋光もその次の年。時疾公病。世公をせし。叔父
 保昌齋明が襁褓の中より孤とあり。めいん憐。見のて。慈。養
 育せし。保今茲己ハ十五歳なり。ぬも。その人となり。父も叔父も
 似ど。放陽。懶墮。ふ。ゆ。公。務。ざ。れ。保昌あ。て。教訓を。か。つ。の。へ。も。
 これを。せ。ふ。ま。く。と。あ。同。氣。相。の。め。同。病。相。憐。の。做。る。保。捕。ふ。ら。う
 も。あ。ど。生。平。小。眠。相。語。折。ふ。あ。て。高。恩。乃。叔。父。を。識。る。あ。ひ。人。を
 な。げ。小。奉。止。つ。保。捕。も。この。人。を。り。が。あ。の。よ。れ。媒。あ。る。か。と。あ。り。ど。流。石
 を。と。と。あ。う。う。好。く。只。武。が。ひ。ら。お。い。と。ふ。公。え。あ。り。ど。り。と。ふ。あ。ら。や。の。を。

つひく。保。齋。明。と。や。く。その。ころ。を。曉。り。う。ち。黙。頭。と。い。は。し。が。次。の。月。に
 走り来り。保昌の外。おひ。て。く。い。ま。ど。帰。あ。ら。ど。今。南。向。の。便。坐。ふ。ら。と。
 彼人ひら。お。り。と。あ。き。私。語。保。捕。へ。う。と。顔。小。衣。襟。う。た。合。せ。る。その。知。母
 め。く。ん。ふ。お。も。和。泉。式。部。の。端。ら。う。立。出。く。庭。の。花。の。り。り。く。あ。一。重。の。さ。の。の
 雨。舟。う。り。の。へ。ど。ハ。や。ら。ま。て。用。も。栴。也。柳。の。翠。なる。桃。の。紅。る。霞。の。色。鳥。の。声。眺。み
 倦。ぬ。春。氣。色。の。ち。よ。ま。ま。ど。べ。た。天。地。の。惠。こ。ら。と。ひ。ら。ら。ち。ち。わ。り。り。た。保。捕
 つ。その。や。ら。ま。と。い。ま。ど。保。捕。の。ぬ。の。の。程。あ。う。へ。の。あ。ま。ひ。つ。と。う。ち
 驚。き。た。ま。ま。と。ま。る。その。袖。に。入。都。人。小。交。交。め。る。身。の。一。首。の。ち。や。も。詠
 得。ば。の。小。行。を。か。ぐ。あ。ひ。この。頃。頻。お。の。ら。う。け。の。あ。ら。あ。ら。う。い。ま。ど
 さ。や。る。源。也。事。ど。嫂。の。世。の。ゆ。さ。る。歎。と。ふ。か。い。せ。他。人。小。え。せ。く。恥。づ。け。は。ま。ま
 せん。ら。ら。と。忽。車。小。司。ま。わ。ら。う。み。く。ゆ。の。腰。の。筆。削。ら。り。り。ゆ。と。り。ん。は。い。

小式部
いさむらぶ
一言
とまへし
救母圖

集益異録
卷之六



川
五
異
録

卷
之
六

四

三

すく。嫂溺せしむ身溺らぬ。これ又豺狼よこそこのひ捨る。裳公拂
ひくまんと。保捕の飽きし。辱らむ。忍心頭お發り。刀を抜て走らる
折しも。今茲七歳あり。小式部先より。物産は隠聴し。わたり。れが
母の既小危れと。障子をさしひら。父と只今。うそせ。つら。と。昔
と。保捕らね。驚き。走り退く。隙小式部も内房。まき。れ。入りぬ。
この時り。小式部。あ。せ。式部。の。忽ち。保捕。が。白刃。の。下。小命。と。失。ふ。べ。り
ん。頃智の。一句。小母。の。急難。を。救。ひ。ん。有。と。は。女。り。保捕。の。急。の。ま
は。悪念。ま。と。煽。く。り。と。ど。も。再。び。これ。を。色。も。お。と。式部
の。又。保捕。が。かれ。新。邪。あ。り。つ。禍。を。し。知。て。夫。の。為。ふ。ら。め。り
り。あ。り。あ。ん。と。ら。安。い。と。これ。の。ゆ。え。夫。小。告。ま。り。ん。と。し
その人の恨をさめ。と。や。せ。ま。か。や。せ。ま。と。あ。ひ。し。ひ。と。お。れ。乃

色も生ず。あ。ざ。り。と。保。昌。これ。怪。一。日。小。式。部。が。し。り。は。身。が
母。の。頭。へ。と。お。ゆ。り。つ。び。さ。つ。い。つ。も。の。ぞ。縁。故。を。あ。り。と。ふ。り。し。ふ
告。し。つ。ふ。小。式。部。の。回。答。も。せ。ぎ。床。あ。り。ん。料。紙。を。ら。り。一。葉。を。し
く。と。書。き。め。を。父。か。し。ま。り。ぬ。保。昌。押。ひ。ぬ。と。れ。ぬ。と。ま。り。ぬ。
この箱の。梅。乃。枝。小。乃。枝。椒。の。刺。を。か。き。て。伐。さ。ら。せ。ぬ
と。あ。り。せ。り。む。わ。り。げ。ふ。と。ま。り。ぬ。と。ち。吟。じ。考。ふ。小。梅。の。木。扁。公。去
ま。び。母。乃。り。又。椒。の。木。扁。公。去。ま。び。叔。乃。り。と。ら。せ。ぬ。梅。乃。枝。小。乃。枝。椒。の。木
保捕。が。式。部。小。懸。想。せ。ぬ。り。ふ。か。れ。ぬ。その。椒。の。刺。を。か。き。て。伐。さ。ら。せ。ぬ
と。あ。り。せ。り。新。あ。れ。叔。乃。何。と。し。と。う。く。遠。り。ぬ。と。れ。故
あ。り。母。の。む。を。安。く。す。は。き。と。告。げ。る。と。一。首。め。ら。り。公。時。得
し。ひ。小。式。部。が。後。才。小。懸。た。し。び。保。捕。が。新。邪。を。し。り。ふ。く。公。の

川

集

五

中ちゆう小藏せうざう。この目めの何なにの辞ことばりありてやふなり。この式部しきぶが女によありしことハ
 世よ小並せうへいくさうとさうあり。年とし十二じふにころより。宮闈みやうらち小給せうじふは和泉式部わいせんしきぶ。
 女によ見みのまじまじが小式部内侍せうしきぶのちゆうしとせめられたる初はつれより和奇わきの達者たつしや小秀逸せういつ。
 多おほかりなる人ひとみな疑うたがひく。これハ母ははの和泉式部わいせんしきぶ小せうまきせり。いふかまきり
 のことつひくあり。小式部せうしきぶもこのひかりまきりて朽くちとれたるふありしりふ
 一年いちねん歌合うたがひありたり。おれは養父やうふ保昌たけあきハ丹後守たんごのりやう小せうありて和泉式部わいせんしきぶハ將まさ
 任まか國くに小越こしえ小式部せうしきぶハ給たまひぬまかるんあり。ゆくり都みやこ小留せうりゅうてしきハこの
 人ひと小せうえりて入いらまきり本日このひちりてあり。時とき中納言ちゆうなごん定頼じやうらい卿きやう。公任こうにんの男おとこの
 こまを猶なほ来ていけいせきせりや丹後たんごハ人ひとつりてらんや使つかひいませり
 久くりまきりてや。ゆりてありおほきんなど戲あそびてまかりか引ひとあり。
 大江山おほえんの道みち乃のち遠とほくればまてゆももん天あまのころ立たて

ともともしりれば定頼じやうらいの當意たうい即妙じやくめうの一首ひとしゆ小鷲せうじゆハ羞はづく。返かへりも及およぶと袖そで
 引ひとありて逃にがしりたり。もしりて小式部せうしきぶが名なありありしりてあんなかる
 蓋世えいせいの才さいあり。惜あはし短命たんめいありて十四じふのころ死しすなりぬ。そのころ中宮ちゆうぐう
 より毎年まいねん小異服せういふくをつきさへて小式部せうしきぶといふ名の書かきたありとて和泉式部わいせんしきぶ。
 緒いともみ苔こけなりし。朽くちと埋うめまぬ名のころるぞうあり。
 とりて互たがひたり。間話まなわ休題きうだい保昌たけあきハ保補たけほが淫ひんがらん行いあれたる時ときり。
 ふく歎なげれ。まじの送命そうめいありんぞう。故ゆゑハ保補たけほハ教育きやういくをこころも。彼か
 えり根ね知しあり。家門けかどを穢けがさんとて夫つまハ藤原武智ふじのち九くより知しり。
 世よ名家めいけの後のちあり。あつるハ朝敵あそ送腹そうはらの見みの為ため。先祖せんぞハ羞はづめしり。
 のと朽くちと。も中ちゆうこれハ遠とほけり。禍わざはひ乃のち門かどハ塞ふさぐみまきりてとひひきり。目め
 保補たけほハ折しれ。せ張公ちやうこう藝ぎハ九世くじうの同居どうきやうも。忍しのの一字いちじ小成せうじやうとあり。まて。いふ

小式部内侍
歌答
定頼郷
圖



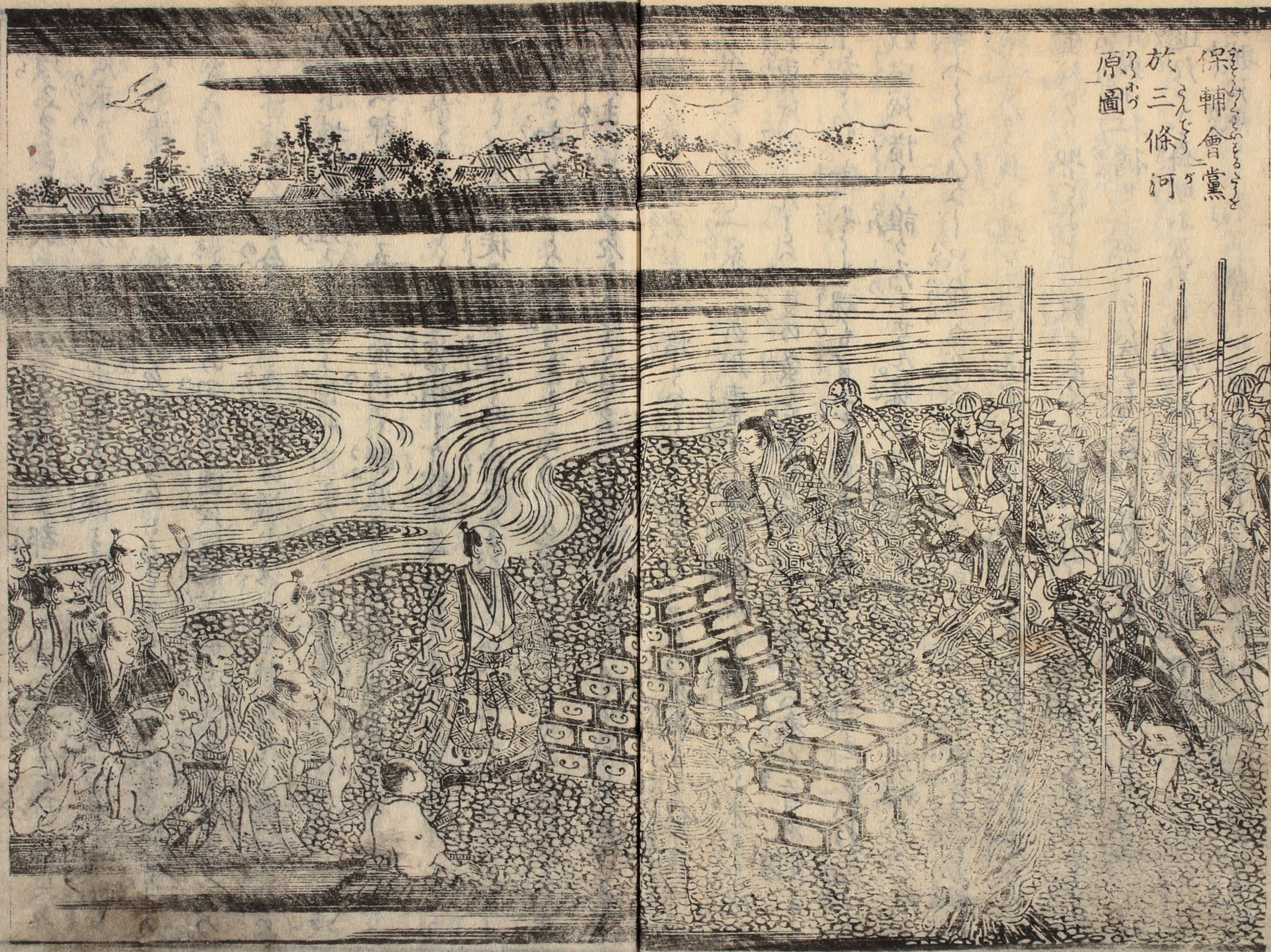
川
上
六
段



第五回

使高倉齋明
人物偷隊圖

保輔會黨
於三條河
原圖



の後ろより大敗ありとつべ。吾僑速は都へ去る。豫て住むべ
 地を求む。小江別高場へ水陸より小便よきて、究竟の要害あり。奇明を
 國の太郎。是れ彼地を赴ける。金分りて、中へ城を築く。二十年の
 計なるべし。これ其の間、小國に編歷、城廓成就あり。人々
 ひて住むべし。命をば。奇明の議、小徒ひ衆賊は、高場を赴ける。
 堅固小城を修理す。りりり。保捕が、ちゆふ。保捕は、この夜
 侯の次郎と小賊五七人を將く。難波の、小啓程ぬ。武藏へ、
 りありとも。その黎明、館へ入り来り。門の扉を、
 穿てあり。主徒を、怪しむ。裡へ入る。二人の、者へ切、
 きて。却る。却る。傳らる。あり。り。大に驚く。その故、
 どの主の恙あるを。且より。且羞く。ち。の。お。る。を。

時、縁由を、驚か。彼強盜保捕が、家へ逃、
 善時が、家へあ。る。か。り。こ。小禍。か。り。前門へ
 狼が、功。後門より、虎の、入。る。を。忘。る。過。あり。こ。安。ら。ぬ。の。あ。と。
 只官、憤。り。又。こ。小。保捕が、今夜、家へあ。る。を。疑。ひ。彼
 家の、形勢。と。ん。と。あ。る。夜明、て。の。り。人。か。つ。り。の。金。を。ゆ。り。
 保捕、あ。夜。の。中。逃。去。ら。り。人。家。の。内。あ。り。一。人。も。居。ま。り。こ。小。善時
 主徒、ら。ぬ。と。時。を。彼。が。奇計。に。陥。ら。り。の。れ。ま。る。と。あ。齒。と。切。り。
 その、こ。は。不題、攝津、前司、保昌、向。小保捕、を。將。く。あ。れ。と。き。り。奇明
 さ。へ。り。来。り。彼。が。驕奢、目。小。超。過。め。る。よ。一。せ。え。り。速。小保捕、奇明、
 公、我。絶。し。この、ゆ。先。が。ら。て。天、聽。に。煙。ら。り。この、時。の。人。を。落。中。へ。小
 撃。入。ら。り。強盜、の。保捕、あ。る。と。か。ら。り。保昌、が。前見、か。で。賞。り。ら。り。

第十二綴

多田の前栽植田少女の談

附 卜部季武後園鳥を射事

と小六孫王経基の嫡男左馬頭源満仲朝臣ハ長男頼光朝臣朝家の御護
りて都小六の公りてそのまの揚明多田の城小治假して士と養ひ民を撫

りて治國平天下の計策とつづじりてのちも立夏の節をまらげはみ
迎梅雨の晴間より一声かたらう杜鵑啼きあはれゆく御前小六ひる長臣藤原

仲光小宣ひらうハ夫杜鵑ハ鶉のまやうと羽黒しとの声哀しく血が吹く土人
らめてその声とまじりて離別の苦ありとふ只田家その鳴か候ハ辰事を

奥とて率陽風俗録にも記しりてこのむと和奇あひくむるの田の邊に杜鵑
とての田長を釣きしとある也自他今日身命とては其の大君の

賜りて粒くまみ民の辛苦不成るまうと深窓の城を杜鵑のまやうと
詠奇小六と耽りて田家この鳥の声をやう農人奥との勅勞

みまよりのほよりて今茲ハ城中水田がゆたふ女見ふ殖をく民乃
辛苦ととせむとせむと豫てその準備せしと命じり六仲光と主

君の賢さ感と感とてまらり次の日より前栽人夫をつとむらうとと
奉りて田を鋤水をまらせ日まづて準備とて整ひぬ満仲朝臣

は居まらうとこの時よりまらる嫁のまらる非君二人すておませうと
やそのゆとせむとせむの艶麗めとまらる誦侍女二十人とえらるに練の標継

額額の草衣小純の玉禪禪りさせと一般小市女差を載せ二人乃
姫とらもその中おちまらしてせむのひぬ特小真あはれ遊びる主従

しうと勇らう旭中東の山の挟小登らうより玉苗を担ぐことハ
いふとるものぞと回る人もまらる彼小回られ回ると真とせむと

刺盜異録

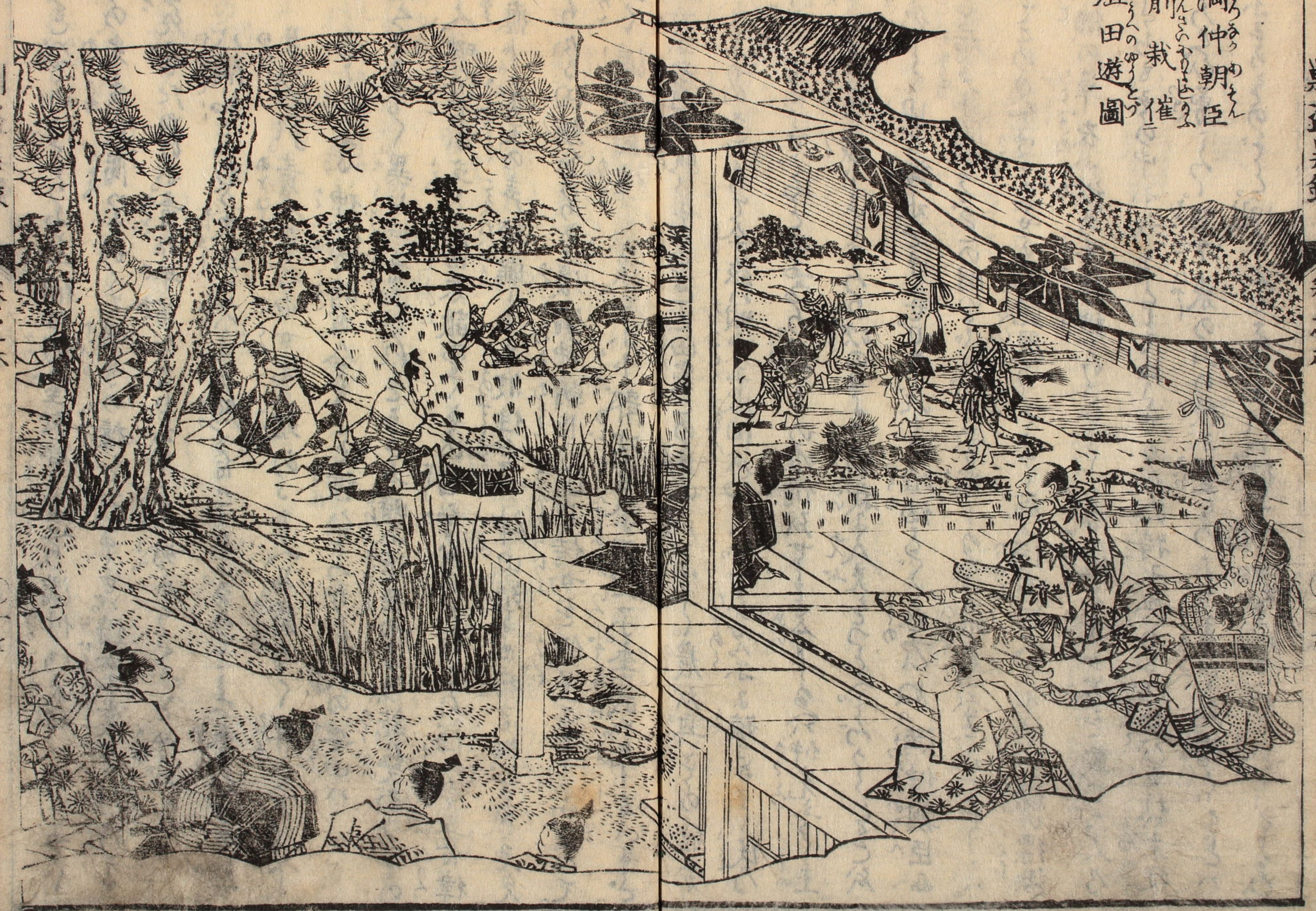
卷之六

十五

満仲朝臣
前栽催
殖田遊圖

東五異鏡

卷之六



東五異鏡

卷之六

六十一

ぬき。そのほららふ。一個の假屋が営造り。満仲の夫婦はつゝめく
その光景が腐り。かゝて暗号の標を打つ。せば侍女衣裳を引取り
白んきたのびる。青れ早苗をとりあぐ。声妙めらふとやい。

八隅知。あが大王のくこの照る白くこのよ。あめて。この養ひませを婆
生りぐれ。青人草の少女児が。殖めたる人。森をく早をあくと。
ちくやあ。神代の時。今もくと。種ひらなれた。天の安田の

とらりくしく。異口同音ふこれをうとふ。時ふ近臣のうら。能藝あうこの
十人畔。辺りふと。笛太鼓あくと。の唱奇かるとけられた。二合五音律
か應。金玉の声玲瓏。て彼住吉の神田殖も。勝るぬぐとえんえ

とらり。田殖とり。後満仲朝臣の近臣侍女を假屋ふめ。一をのひて。
且く酒宴が催一のふ。とふ。卜部次官季國が。一子季武の。才いま

丁おご。相貌美麗の風流士あり。武藝はその家生とさればさうあり。
就中射。しる。百幾百中も。難しとせむ。ふらのとさくど。音曲の枝ま

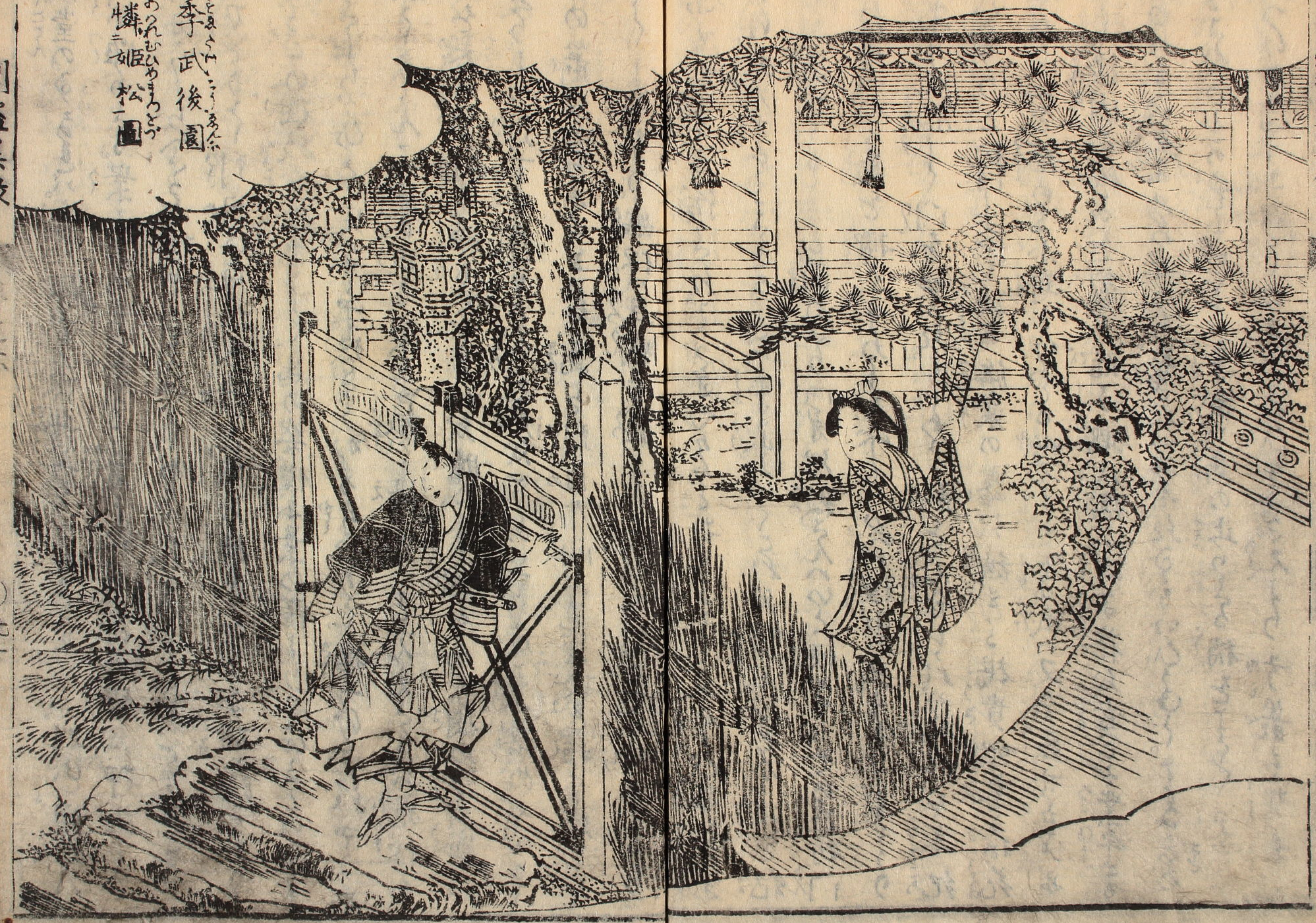
疎く。ふれ。この自太鼓の役ふえ。とま。と。今酒宴の席ふ列。居ら
え。酒と嗜ぶる。ゆり。と。中その席ふ。出。ゆり。前裁の中

漫。して。ゆら。後園のほら。ま。来ぬ。と。人。前。面。小。築。垣。あり
。枝折。門。を。裡。り。鎖。し。り。常。む。男。子。の。入。る。と。は。許。さ。さ。る。と。こ。り

。ま。ま。べ。か。る。時。ふ。こ。そ。外。あ。ぐ。も。ま。ま。え。お。く。べ。な。れ。と。と。ひ。と。何。ら。ら。わ。く
垣の下ふ。と。ら。あ。ま。と。裡。ふ。女。子。の。號。哭。と。怪。し。と。あ。う。耳。は。側。と。さ
そののふ。と。を。や。ん。と。ま。ま。も。同。遠。く。あ。く。ま。ま。れ。ば。は。い。あ。く。こ。ら
り。と。ま。れ。ば。彼。方。是。方。と。立。巡。る。と。その。あ。ま。や。く。松。の。枝。ふ。帯。が。投。う。け
ら。が。帯。の。端。垣。の。と。ま。り。ゆ。く。と。ん。の。と。ま。る。ふ。追。う。く。縊。人。と。と。れ

季武後園
のれむひあまるとか
隣二姫松一園

川登異録



東山異録

卷之六

後堂のすまゝに。そなたはどこの兵具をも置きとらへ。おは田殖乃
 料小作らる。粟山子のちる箭うとぞ。何やげふ竹公押張りて
 子母らうらうら。垣まよせうけくありく。そのまよと箭とぞ。まよ
 小刀ぞ。引目の目柱を缺て。箭公挟む。まよる樹蔭よとぞ。
 此の樹枝葉蔽くして。鳥の姿僅小葉の隙より。こゝろとりのも
 枝らうらうら。定めず。殊さうか。るる。つげされ。やうめ
 射くぞ。んこと。養由といへ。輒く得。とんえと。お松ら
 液を吞背。汗。睡のせむ。これ公。瞻る。李武と。樹の下。公。寝ひ
 め。らう。引丁と。獲せむ。声公。め。箭の庭と。小。落ぬ。や。が。う
 その箭公。さ。り。あ。ぐ。ま。る。島。ら。引。目。乃。同。小。尾。公。挟。む。お。松。ら。う
 と。ら。う。ら。かり。姫。松。は。且。感。ト。且。よ。ら。こ。ひ。これ。と。如。の中。お。と。あ。ち

い。ら。ん。は。李。武。へ。中。走。り。ま。と。ん。と。ま。よ。公。姫。松。に。く。その。袂。中
 湯。も。凍。小。君。ら。う。ら。が。乃。お。命。の。親。あ。く。かり。と。ま。よ。公。千。の。贈。物。を。と
 り。ま。よ。と。ま。よ。公。足。さ。む。の。今。頃。の。ゆ。あ。ま。進。ぶ。れ。と。の。あ。い
 こ。れ。あ。な。ふ。似。と。れ。後。お。報。ひ。ま。れ。その。謹。も。え。の。人。と。の。ひ。と。
 や。と。ら。う。ら。の。間。より。さ。や。う。な。れ。鏡。の。背。あ。の。五。鬘。の。松。公。鑄。ら。う。公
 ぞ。ら。お。贈。ふ。も。さ。ら。う。ら。あり。け。あり。され。と。李。武。と。れ。と。亭。を。ま。れ
 え。ら。謝。物。を。受。ん。と。け。乃。公。救。ひ。く。あ。の。あ。げ。か。れ。お。と。得。ま。よ
 ん。あ。お。人。の。疑。と。く。濡。衣。公。被。せ。ら。ぶ。長。く。こ。の。あ。い。ん。も
 執。護。ら。れ。と。く。ま。ら。り。お。ん。と。の。あ。公。姫。松。こ。の。納。め。と。精。く。言
 と。と。ま。ら。れ。ば。ま。よ。い。も。今。ま。せ。ん。と。ま。よ。鏡。公。取。り。懐。小。挟。ん。と。と。れ
 ら。と。満。仲。の。夫婦。姫。君。り。ら。う。ら。入。せ。の。へ。李。武。も。姫。松。も。

阿とさうり小驚れ怖とく。備小のいかわれど。振松ハ帯分解と松乃
 枝小掛が下捨の綱一ましく。そのさ由和彦小終とく。そのさ由
 仲光忽ち二人が傳め外面小引物と。満仲朝臣ハ何とも宣つと。
 眞小へせりひるる。家小法則ありと。男女の密會ハその衆首が
 知らる。べん小定おれのひめさうり。ぶらも救ひのふとあつりど。
 次の日仲光小命とてふ我の始末を問せのふとつと。季武も姫松も
 縦ひこのゆかひとくとも。法を犯しと。後園小會しめと。その罪
 逆身とく。とくとも。はか母と一言の回答ふおと。仲光も日來季武
 が忠義のころ篤と。ともも武藝の勝と。さうら惜と。これがさうの
 まはとくとも。政も小あれ。おの巽負の沙は。不及と。枝小和彦
 小明の音かやれば。満仲朝臣も只管惜とのひつ。近日死刑は。松乃

へと命と。ひるる。詰分両頭と。ふ又姫松が父ハ王瀬平太郎といひて
 攝州玉瀬の侍あり。田園居多り。傳へて。奴僕百餘人。食養ハ
 庫小餘の粟。穀の貸。積る。實ハ天地の間。干と。幸福が得と。人
 と。その世も美と。め。豪家も。あつら。さうら。ふ多田の御館小給事
 と。さ。最愛の女兒。姫松。ト部季武。ト中。ん。近臣。と和彦。その
 の。發覚と。近日死刑。小行。さ。は。さ。平。右。郎。夫。婦。さ。い。ふ。と
 驚。れ。あ。つ。ら。小。旗。家。よ。う。え。て。も。救。へ。れ。と。さ。り。や。と。その。方。が。の。の
 小。説。一。只。願。宥。免。と。請。と。の。い。も。課。科。既。定。ら。と。これ。が。救。小。由
 さ。う。れ。の。日。小。悲。と。夜。小。哭。死。神。小。幣。帛。を。獻。僧。小。祈。禱。を。乞。ひ。
 その再生が。禱。外。他。ゆ。ら。う。ら。う。この。時。禱。聖。保。神。ハ。中。庭。小。赴。ん
 と。く。傍。小。ま。り。ま。り。小。の。う。あ。つ。て。う。この。ゆ。か。は。け。り。かん。と。れ。計。と。り。て

